

部会名	令和5年健康くまもと 21 推進会議 食の安全安心・食育部会		
開催日時	令和5年8月25日(金) 13:00~15:00	場所	市役所 10 階会議室(庁内推進委員は Teams オンライン参加)
出席委員 (五十音順・敬称略)	國徳健二、竹原欣哉、東野裕子、中村好郎、永田智恵子、長濱一弘、平川恵子、三浦弘文、守田真里子、山田浩一(10名)		
議事1	第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食の安全安心の確保」の進捗状況 について		審議 : 済
	主な質疑 応答	<p>【質疑1】 熊本市における食中毒発生後の営業停止期間について、事例によって違いがあるのはなぜか。</p> <p>【応答1】 原因施設に対して営業停止を行う目的は、食中毒の再発防止と、被害の拡大防止である。汚染している可能性がある食品の廃棄、施設の洗浄消毒のほか、調理従事者に対する衛生教育などの措置を行うために必要な期間について営業停止を行っている。</p> <p>【質疑2】 検証指標項目「熊本市 HACCP 適正普及推進事業の取組み施設数」について、延べ施設数となっている。同じ施設が重複して計上されているのか。</p> <p>【応答2】 事業開始からの累計施設数ということ。同じ施設が重複して計上されている訳ではない。</p> <p>【質疑3】 検証指標項目「熊本市食品安全情報ネットワークでの情報発信数」について、内訳に緊急情報と定期情報があるが、定期情報だけで目標値達成を目指すということか。緊急情報は本来なら出ない方がよいものであるか。</p> <p>【応答3】 定期情報として月2回以上発信することで目標が達成されるよう設定している。緊急情報とは、食中毒注意報や警報が発令された際に発信している。これは食中毒が発生しやすい気象条件になったときに注意喚起のため熊本県が発令するものであり、食中毒の発生件数と直接リンクするものではない。</p> <p>【質疑4】 「食中毒、苦情発生時の迅速な原因究明」の令和元年度実績が他の年度に比べて突出して多い。この時も食中毒注意報の発令などはあったか。また、その後減少しているのは、指導が徹底され、注意喚起が行き届いていると考えてよいか。</p> <p>【応答4】 この項目は、保健所に寄せられた飲食店利用後の体調不良に関する相談のうち、食中毒の疑いがあると判断し、相談者や飲食店従業員の検便検査、施設のふき取り検査などを実施した検体数と検査項目数の延べ数で</p>	

		ある。令和元年度実績が多いのは、検査を実施する事例が多かったということ。令和2年度以降は、コロナ禍における飲食店の営業自粛等もあり、食中毒を疑う事例が減ったことが要因の一つであると思う。行政の指導や、営業者の自主衛生管理の取組が実を結んで、そのような事例が減少することが理想的である。
議事2	第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食育の推進」の進捗状況について	審議：済
	主な質疑 応答	<p>【質疑1】 こどもだけで食事をするのがほとんどない家庭の増加のため、共食の取組について強化を図ったとあるが、具体的にどのような取組を行ったのか。</p> <p>【応答1】 熊本市こどもの食育推進ネットワークの活動と、1歳半健康診査の際に、3歳児で共食がある家庭とない家庭で、好き嫌いや食事の量、お手伝いの有無等の相関関係を示した共食のメリットを伝える資料を配布し、家庭においての共食が進むよう、啓発に取り組んだ。</p> <p>【質疑2】 こども食堂に対して開設や運営に係る費用を助成したとあるが、どの位助成をされているのか。また、こども食堂の運営の実態を教えてください。</p> <p>【応答2】 熊本市に60近くのこども食堂があり、こども未来応援基金を活用し開催の頻度に応じて補助をしている。こども食堂の運営は、病院、個人、NPO等が主体的に実施されている。可能な限りこども食堂を訪問し、聞き取りを開始している状況である。</p> <p>【質疑3】 若い世代の大学生などにも食育をアプローチできると良いと思うがいかがか。</p> <p>【応答3】 大学生向けに「大学生講座」を実施している。コロナ前の令和元年度は47件の実施であった。新入生オリエンテーションや学園祭のイベント等、一人暮らしを始め食生活が乱れる年代に対して、積極的に行ってきた。コロナ禍においては動画配信を行った。若い世代へのアプローチは重要であると認識しており、市内の大学と連携した食育を実施していく。</p>
議事3	第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画の評価について	審議：済
	主な質疑 応答	<p>【質疑1】 検証指標「食品添加物に不安を感じる市民の割合」が5割以上であるが、必要最低限の食品添加物でも入っていたらよくないと感じる市民が多いということか。</p> <p>【応答1】</p>

部会名	令和5年度 第1回 健康くまもと21推進会議 歯科保健部会		
開催日時	令和5年8月25日(金) 15:30~17:00	場所	市役所 10 階会議室(庁内推進委員は Teams オンライン参加)
出席委員 (五十音順・敬称略)	工藤壽子、佐藤成美、竹原欣哉、田上敬祐、永田智恵子、永野智子、中村好郎、中山秀樹、平川恵子、松本健次、三浦弘文、山田浩一、渡辺猛士（13名）		
議事1	第3次熊本市歯科保健基本計画の進捗管理について		審議：済
	主な意見質疑	<p>【質疑1】 フッ化物洗口は令和5年度から保育所等でも積極的に行うようにということだが強制なのか。</p> <p>【応答1】 強制ではない。</p> <p>【質疑2】 資料1の8ページについて、フッ化物洗口の実施校は83校であるのに健康教育の実施校のグラフでは82校となっているのはなぜか。</p> <p>【応答2】 洗口は実施しているが健康教育をする時間がとれなかった学校が1校あったため、このような数字になっている。</p> <p>【質疑3】 妊婦歯科健診が今年度から直営を廃止した関係で受診率低下の懸念があるということだが、指標①の口の健康と喫煙の関係について知っている者の割合の出典は妊婦歯科健診の結果から抽出している。そうすると受診者自ら健診行動を起こそうとする意識の高い受診者の結果となり目標値の数値にバイアスがかかるのではなか。また、目標値 75%を達成できるのか。この目標値が達成できたかどうかを判断する数値の母集団はどのようにになっているか。</p> <p>【応答3】 母子手帳発行時または妊婦健康相談時に妊婦歯科健診の間診票を渡している。直営で健診を実施していた時には健診受診後に回収し、また歯科医院で受診した場合にも歯科医師会を通して回収することとしている。この間診票数を母集団としており、直営のみの母集団ではない。</p> <p>【質疑4】 指標①の指標を確認するためには母子手帳交付時、妊婦相談時に渡される間診票と自ら健診を受けられた方の間診票を合算したものであるという認識でよいか。</p> <p>【応答4】 そのとおりである。妊婦歯科健診は直営を廃止したものの、妊婦健康相談は現在も実施しているため、その時に妊婦歯科健診の受診について周知を図っている。</p> <p>【ご意見】 熊本市の妊婦歯科健診の受診率は直営で実施していたこともあり、これまで九州8市や政令指定都市内でもダントツに高かった。今回直営が廃止し、</p>	

		<p>歯科医師会の手に移行したが今後も何とかしてこの受診率を維持したい。フッ化物洗口に関して実施校の増加に向けた実施方法や人材確保とあるがこれに尽きると思う。これをどうするかによって熊本市が実施率やむし歯罹患率が最下位になるかの分かれ目になる。熊本県下の他の自治体は現在徹底して洗口を実施している。洗口の重要性は学校の先生も十分に理解していると思うので、あとはどうにかスムーズにいく方法を模索していただきたい。</p> <p>【質疑5】 妊婦歯科健診が直営を廃止したとあるが、勧奨のための案内は出すのか。</p> <p>【応答5】 母子手帳発行の際には必ず職員が対応する。歯科専門職でない職員が対応した場合でも妊婦歯科健診の案内と協力歯科医療機関の一覧を渡して周知している。</p> <p>【質疑6】 不正咬合のこどもが多く、また半分以上が上顎前突で原因は指しゃぶりということだが、ここまではっきりわかっているならこれに特化したアナウンスがあってもよいのではないか。</p> <p>【応答6】 3歳児健診の際に個別指導の機会があり、そこで「指しゃぶりをやめよう」「おしゃぶりをやめよう」という声掛けを行っている。どういうときに指しゃぶりをするのかを聞き取り、指しゃぶりをしなくなったら注意を他に向けるなどのような方法を薦めている。</p> <p>【ご意見】 歯科保健指導で地域に出ると「赤ちゃんはおしゃぶりをするものだ」という認識を持っている方もいる。こういう方にしっかり指導することが重要かと思う。指しゃぶりは寝る前にすることが多いので昼間にしっかり遊ばせて疲れさせたり、指しゃぶりをしそうになったら手遊びやおしゃべりをして注意をそらすように指導している。最近は親も忙しくこどもと触れ合う時間が少なくなっているためこどもと関わる機会を持ってもらえるようにしている。フッ化物洗口の実施もあることから自分たち歯科衛生士が小さいときから歯について話していく必要があると思う。</p> <p>【質疑7】 妊婦歯科健診の受診率が上がっているのに熊本市のこどものむし歯が減らないのはなぜか。</p> <p>【応答7】 妊娠期間やこどもの歯の萌出を経て、いつ仕上げみがきを始めるかで悩まれている保護者もいる。この場合1歳6か月児健診での指導では遅いという意識でいる。今年度1歳からのフッ化物塗布事業を開始することからその効果に期待している。</p>
報告1	第4次熊本市歯科保健基本計画に関する策定委員会の報告	報告：済

	<p>主な質疑応答</p>	<p>【質疑】 第4次の体系図と第3次の評価の図があるが、第3次と第4次で若干指標が変わっている部分がある。第3次から第4次で指標が変化しているものについてはなぜ変わったのかの整理が欲しかった。この補足説明が分かる資料などを出す予定はあるか。</p> <p>【応答】 最終評価は計画の中でも説明していくことになるが、現時点で最終評価の結果がまだでていないものもあるため、目標値を達成しているか、その結果とすり合わせて新しい指標を立てる予定である。また、国の方針で人の幼少期から高齢期までのライフコースについて記載があるため次の計画でもこれを踏まえた指標になると思われる。</p>
報告2	熊本市口腔保健支援センターの取組報告について	報告：済
	主な質疑応答	質疑なし

部会名	令和5年度健康くまもと21推進会議 がん部会		
開催日時	令和5年11月16日(木) 15:00~16:30	場所	市役所 10 階会議室(庁内推進委員は Teams オンライン参加)
出席委員 (五十音順・敬称略)	大森久光、濱田泰之、工藤壽子、永野智子、山田浩一、原田直、宮本浩、 小山登代子、内田昭治、(9名)		
議事	がん検診受診率向上に向けた取組について		審議 : 済
	主な質疑応答	<p>【質疑】 特定健診とがん検診の同時実施が重要だと考えている。同時に受診できる花畑健診の実施などの取組を行っており、引き続き推進していただきたい。</p> <p>【質疑】 特定健診とがん検診の同時実施は重要。また、肺がん検診・胃がん検診の精度向上の取組への協力や、子宮頸がんワクチン接種の推進についてもお願いしたい。</p> <p>【応答】 特定健診とがん検診の同時実施は受診者にとっても良い取組だと感じている。花畑健診は今後も継続する予定であり、特定健診とがん検診の同時実施の推進等、がん検診受診率向上に向けて今後も取り組んでいく。</p>	